

# JANS 若手の会 第5回関西エリア検討会 報告書

## 海外学術誌 エディターが語る！

### 若手研究者のための査読・採択のリアル

2026年2月22日（土）、第5回関西エリア検討会を現地にて開催し、沖縄を含む全国から21名（大学教員、臨床看護職、大学院生、学部生）が参加した。

第1部の講演会では、講師 椿 美智博先生（北里大学看護学部 講師）の海外学術誌のエディターとしての経験を踏まえ、国際誌における論文投稿から採択に至るまでの査読・編集プロセスについて解説が行われた。特に、エディターによるファーストリーディング（一次査読）の段階でどのような点が重視されるのか、どのような論文がレビュアーに回されるのかといった実践的な視点について具体的に紹介された。また、椿先生が関わる海外学術誌における年間投稿件数や採択率などの実態についても説明があり、国際誌における研究発信の現状と編集動向について理解を深める機会となった。さらに、若手研究者として国際誌で活動する上での学びや心構えについても共有され、参加者にとって今後の研究活動やキャリア形成を考える上で有益な示唆が得られた。

第2部の座談会では、第1部の講演内容を踏まえ、参加者同士および講師との意見交換を行った。参加者からは、国際誌への投稿経験や査読対応の難しさ、研究成果を国際的に発信する際の課題などが共有され、それぞれの経験に基づいた具体的な議論が展開された。また、講師からは、国際誌投稿に向けた準備や研究の発信戦略に関する助言が示され、参加者にとって実践的な学びを得る機会となった。座談会を通して、研究者同士の交流も深まり、今後の研究活動の発展につながる有意義な時間となった。

#### 参加者アンケートからの本検討会に学び

まず、海外学術誌における論文投稿から査読、採否決定に至るまでのプロセスについて理解が深まったとの声が多くみられた。特に、エディターによるファーストリーディング（editor kick）や査読に進む論文の特徴など、エディター側の視点から説明を受けたことで、これまで不透明であった査読過程の実際を具体的に理解する機会となったとの意見が挙げられた。また、研究計画段階から投稿先ジャーナルを意識し、論文種別や研究内容に応じて複数の投稿先を検討するなど、戦略的に準備を進めることの重要性についても理解が深まった。

さらに、著名な研究者であっても複数回のリジェクトを経験していることや、論文投稿を重ねる経験の重要性についての話から、リジェクトに過度に落ち込む必要はなく、継続的に挑戦する姿勢が大切であることを学んだという意見も多く見られた。こうした話を通して、論文投稿に対する心理的なハードルが下がり、「海外雑誌への投稿に挑戦したい」「論文投稿を恐れずに取り組みたい」といった前向きな意欲が高まったという感想が寄せられた。

加えて、投稿支援業者の選択や査読対応のポイントなど、実務的な側面についても有益な情報が得られたとの意見があり、論文投稿に向けた具体的な戦略を考える上で参考になったという声もみられた。また、エディトリアルボードの立場からの「生の声」を直接聞く機会は貴重であり、投稿者としてだけでなく、将来的に査読者やエディターとして関わる際にも役立つ視点を得られたとの意見もあった。

以上より、本検討会は、海外学術誌への研究発信に関する理解を深めるとともに、参加者の研究活動への意欲を高め、今後の論文投稿や研究発信の実践に向けた有益な学びの機会となった。



#### 関西エリア・コーディネーター

伊東由康, 岡本留美,

野寄亜矢子, 和辻雄仁,

吉川あゆみ, 飯田恵子（文責）